

## 鉄道事業の旅客運賃の上限変更認可申請について

新京成電鉄では、2023年2月17日（金）に鉄道線（京成津田沼駅～松戸駅間）の旅客運賃の上限変更認可申請を国土交通大臣宛てに提出しました。

申請理由、申請内容は下記のとおりです。

### 記

#### 1. 申請理由

当社は、千葉県北西部（松戸市、鎌ヶ谷市、船橋市、習志野市）において沿線（営業キロ 26.5 km、24 駅）に密着した鉄道会社としてお客さまの通勤・通学輸送という社会的使命を果たすべく、輸送の安全確保を優先し、お客さまサービス向上に努め事業に取り組んでおります。

当社線の輸送人員は1994年度の約1億1700万人をピークに減少傾向となり、2005年度には約9,800万人となりましたものの、2019年度には約1億4000万人まで回復いたしました。この間、経営効率化のため、6両編成化による保有車両数の削減、駅および保守業務の効率化のほか、新規旅客需要の掘り起こしなどに努め、消費税増税に伴う旅客運賃の改正を除いて、1995年10月以来、27年余りにわたって、現行の運賃水準を維持してまいりました。

一方、2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が拡大し、旅客需要の大幅な減少、テレワークなどの新しい生活様式の浸透により、2020年度の輸送人員は前年度比23%減の約8,000万人まで落ち込み、鉄道部門における営業損失は11億9千万円、2021年度においても5億1千万円を計上しております。今後も新しい生活様式の定着により旅客需要はコロナ禍以前の状況には回復しないことが想定される中、直近では動力費や物価も上昇しており、2022年度についても営業損失が見込まれる状況にあります。

このような状況下、輸送の安全確保を目的に、鉄道施設の老朽化に伴う設備更新、定期的な検査や修繕、お客さまサービス向上につながる投資を継続するため、毎年度一定の設備投資や維持管理が必要となります。また、連続立体交差事業の完成による償却費が発生するほか、昭和末期から平成初期にかけて多編成導入した車両、変電所設備および列車運行管理装置の更新時期を迎え、多額の投資を実施する必要があります。

今後においても輸送の安全確保にかかる設備投資を行い、鉄道施設の継続的な整備を実施し、お客さまサービスの向上に努めていく所存です。そのためには当社鉄道事業を健全に維持していく必要があるものと考えており、お客さまの輸送という社会的使命を果たすには、費用の削減については自ずと限界があり、現行の運賃水準を維持することは困難であると考えております。つきましては、ご利用になるお客さまのご負担に配慮しつつ、旅客運賃の改定を申請させていただくことと致しました。

## 2. 主な申請内容

### (1) 鉄道事業の上限運賃認可制度について

鉄道事業の旅客運賃については、「鉄道事業法」に基づき、鉄道事業者の「上限運賃」を国土交通省が認可する「上限認可制」となっています。鉄道事業者は認可された上限運賃の範囲内で「実施運賃」（お客さまから実際に収受する運賃）を設定することができます。つきましては、認可後については今後の動力費や物価の動向、お客さま負担を考慮して別途実施運賃を設定する予定です。詳細は国土交通大臣の認可を受けた時点であらためてお知らせいたします。

### (2) 申請日および改定予定日

申請日 2023年 2月 17日

改定予定日 2023年 10月

### (3) 申請した運賃

#### ①普通旅客運賃（大人、1円単位運賃）

営業キロ	現行運賃（円）	申請上限運賃（円）
1～5	147	167
6～9	178	198
10～13	199	219
14～17	220	240
18～22	242	262
23～27	262	282

#### 普通旅客運賃（大人、10円単位運賃）

営業キロ	現行運賃（円）	申請上限運賃（円）
1～5	150	170
6～9	180	200
10～13	200	220
14～17	220	240
18～22	250	270
23～27	270	290

#### ②定期旅客運賃

営業キロ	通勤定期（大人）		通学定期（大人）	
	1カ月		1カ月	
	現行（円）	上限（円）	現行（円）	上限（円）
1～5	5,560	6,240	2,990	3,290
6～9	6,360	7,350	3,430	3,880
10～13	7,130	8,080	3,860	4,270
14～17	7,930	8,820	4,280	4,650
18～22	8,730	9,920	4,720	5,240
23～27	9,540	10,650	5,140	5,620

(4) 増収率

定期外	定 期			合 計
	通勤	通学	計	
11.7%	13.5%	11.0%	13.1%	12.4%

(5) 定期旅客運賃の平均割引率

通勤 38.8% (現行 39.9%)

通学 67.7% (現行 67.7%)

3. 鉄道部門の収支実績および推定

(単位：百万円、%)

項 目	2021 年度	2024~2026 年度(3 年間合計)	
	(実績)	現行	申請
収 入	9,438	32,324	36,186
支 出	10,469	36,359	36,359
差引損益	▲1,031	▲4,035	▲173
収 支 率	90.1	88.9	99.5

※申請上の計算方式に基づいて算出

4. 運賃収入の内訳

(単位：百万円)

項 目	2021 年度	2024~2026 年度(3 年間合計)	
	(実績)	現行	申請
定期外	4,614	17,458	19,506
定 期	4,474	13,793	15,606
合 計	9,088	31,251	35,112

5. 輸送人員の推移と今後の見通し

(単位：千人、%)

実績	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
定期外	37,680	37,486	36,616	26,438	30,209
定 期	66,477	66,907	67,491	54,212	55,670
合 計	104,157	104,393	104,107	80,650	85,879
前年比	100.8	100.2	99.7	77.5	106.5

将来推定	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
定期外	38,116	38,074	38,005	37,937	37,796
定 期	58,763	58,495	58,151	57,624	57,303
合 計	96,879	96,569	96,156	95,561	95,099
前年比	112.8	99.7	99.6	99.4	99.5

※将来推定は申請上の計算方式に基づいて算出

## 6. 設備投資の実績および計画

### (1) 設備投資実績と計画

(単位：年度、百万円)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
	実績	実績	実績	実績	推定	推定	推定	推定	推定
安全対策	2,546	3,044	1,233	3,115	2,894	2,356	2,535	2,731	3,192
サービス改善など	586	847	327	328	977	250	628	498	641
合計	3,132	3,891	1,560	3,443	3,871	2,606	3,163	3,229	3,833

### (2) 主な設備投資の内容

鉄道事業の根幹である安全・安定輸送を確保する為、計画的かつ効率的に設備投資を行ってまいります。

#### ① 安全対策 (2022～2026 年度 投資額約 137 億円)

昭和末期～平成初期にかけて多編成導入した 8800 形車両の老朽化が進行しているため、車両の代替を定期的および継続的に行ってまいります。また、既存車両に関しても VWF など機器更新を行い、併せて省エネ化を実施します。その他、お客さまがより安心して利用できるよう、全車両に防犯カメラを設置致します。老朽化した既存設備の対応として、駅舎の外壁屋根改修による美化および長寿命化、駅舎および橋りょうの耐震化、変電所更新や列車運行管理装置の更新、まくら木の重量化を行うことにより、さらなる列車運行の安全・安定輸送を推進してまいります。

#### ② サービス改善など (2022～2026 年度 投資額約 30 億円)

お客さまサービスの向上を図るため、バリアフリー整備や、サービス機器の更新を計画的に実施します。乗降場設備では内方線整備とホームかさ上げを一体的に行い、内方線については 2025 年度中を目標に全駅整備致します。また、昇降設備では、設置から 30 年以上経過し、故障時の部品調達が難しくなるエスカレーターやエレベーターの更新を行います。さらに、障害者 IC などの PASMO サービスの充実を図るほか、次世代サービスに対応する駅務機器を導入し、お客さまの利便性に配慮してまいります。

## 7. 経営効率化の実施状況および今後の取り組み

当社では動力費および修繕費削減のため、列車を 6 両編成に統一し、保有車両数の削減を図りました。また、駅の遠隔監視化や組織の効率化による配置人員の削減、退職金制度の見直しを行い、安全安定輸送を維持した上、効率化に努めました。今後も鉄道事業を健全に運営するという観点から、引き続き安定的かつ効率的な運営に努めてまいります。

## 8. 運賃・料金の多様化の内容（主な企画商品）

当社ではお客さまへの利便性・サービス向上を目的としてさまざまな企画乗車券を発売しています。新京成線が乗り降り自由となる一日乗車券をはじめ、有名キャラクターやグループ会社とのコラボレーションなど、多様な企画を実施しております。今後は紙媒体だけではなく、デジタルチケットの導入など、お客さまが更に利用しやすい商品を検討してまいります。

- ・ ふなっしーコラボ1日乗車券（2017年度、2022年度）
- ・ 2022年2月22日猫の日記念 たか「猫」うだん記念乗車券&入場券（2021年度）
- ・ 鉄道むすめ「五香たかね」記念乗車券他企画（2021年度～）
- ・ 鉄道開業150周年記念 京成グループ鉄道4社共通一日乗車券（2022年度）

## 9. お客さまサービスの向上策

### (1) 駅施設のバリアフリー化

すべてのお客さまが当社線を快適にご利用いただけるよう、内方線整備やホームかさ上げによる段差解消など、駅施設のさらなるバリアフリー化を計画的に実施致します。

### (2) 異常時対応強化

お客さまが安心して鉄道をご利用いただけるよう、全車両に防犯カメラを設置し犯罪などの抑止効果とします。その他、鉄道従事員を対象に警察や消防と連携した異常時訓練などを実施し、異常時対応と早期復旧を可能とする体制を強化致します。

### (3) 鉄道施設など老朽化更新

経年により老朽化する鉄道車両および鉄道施設（駅・変電所・昇降設備など）について、計画的な維持・更新を行い、鉄道事業の根幹となる安全・安定輸送を継続致します。

## 10. お問い合わせ先について

お客さま案内番号      047-389-1249（平日の9時～12時・13時～17時30分）

